

「秋田大学学生海外派遣支援事業」 帰国報告

記入日：2011年3月30日

所属：教育文化学部／国際言語文化課程／日本・アジア文化選修

氏名：太田美咲

派遣先大学名(国) 圓光大学校(大韓民国)

在籍身分：交換留学生

派遣期間：約1年間

渡航年月日：2010年2月25日

帰国年月日：2011年2月5日

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

ウォンガン大学では語学院に通い、世界各国から韓国にやって来た外国人留学生とともに韓国語を学習しました。最初にレベル分けテストを行い、基礎、初級、中級、高級の4つのレベルに分けられ、自分の語学力に合った授業を受けられるようになっています。韓国語の読み書きや会話ができることやそのスキルアップを目標に学習しました。授業は月曜日から金曜日までで、午前10時から12時まで1・2時間目、午後1時半から3時半までが3・4時間目という日程で行われました。

留学中に身に付けた語学力を低下させないように、韓国人留学生との交流を多く持つようにし、語学力アップを目指して個人的に勉強を続けていき、韓国語能力試験を受けて、資格を得たいです。また、韓国人の考え方や行動の背景にあるものをより深く理解するために、秋田大学での関連講義を改めて受講したいです。

○生活面について

ウォンガン大学では韓国人学生と2人一部屋の寮で生活しました。最初は韓国語での会話に自信がなかったので、韓国人と同じ部屋で生活することに大きな不安を抱いていました。しかし、実際にはルームメイトがいてくれてよかったと思えることばかりでした。宿題で分からないことがあるとすぐに質問できるし、一緒に会話をしていると自然と韓国語も身に付きました。日韓の文化の違いや自分の将来の夢について夜通し語り合うこともあり、ルームメイトの熱い思いに刺激を受けました。また、旅行計画についてアドバイスしてくれたり、引っ越しの手伝いをしてくれたり、生活面でのあらゆることをサポートしてくれて、ルームメイトとは姉妹のように過ごすことができました。



○その他留学全般にわたる感想

韓国に留学して、語学院で他国から来た外国人と一緒に授業を受けました。もちろん、世界各国から集まったクラスメイトは母国語がバラバラなため、韓国語や英語も少し交えて会話をしていました。韓国語を使って外国人と話すことは、お互いに母語ではない言語を使って話すわけですから、たどたどしさはあっても手探りながらも意思疎通できるのだということがわかり、私にとって新鮮で刺激的な体験でした。

また、夏休みの最後の授業の時には、それまでに習った韓国語を使って、クラスメイトが母国の歴史を紹介する機会がありました。その国の場所から始まり、独特の暦の使い方や歴史的に見る隣国との関係などを韓国語で説明してくれました。その時に驚いたのが、自分の国のことをクラスメイトひとりひとりが非常によく理解していたということです。私は他のクラスメイトに比べて、日本のことをどの程度知っているだろうかと疑問に思いました。また、クラスメイトが堂々と自分の国のことを紹介する、その発信力にも感心させられました。クラスの中でも控え目な方だった私は、人前で堂々と話をするクラスメイトを見て、私も日本のことを紹介したい、みんなに聞いてもらいたいと思うようになりました。そのために、まずは母国を良く知ること、見つめ直すことが必要ですし、日本の一般的な大学生のように控え目でいてはいけないと思いました。自分も前に出て、自分の考えを発言できるような人になろうという目標ができました。このように思わせてくれたクラスメイトに出会えたことも私にとって非常に貴重な経験でした。

